

みずほ まちなか会議の結果を踏まえ、町に提言書を提出

30年9月29日に「防災訓練について」をテーマとし総務産業建設委員会が、10月7日に「健康で楽しく安心できる高齢社会へ」をテーマとし厚生文教委員会がみずほまちなか会議を行いました。
町議会議では、まちなか会議の中で出された意見などを参考に両委員会と協議を重ね、31年1月29日に町へ提言書を提出しました。



総務産業建設委員会からの提言書

2011年3月11日の東日本大震災は、2万人近くの方々の命が奪われ、数多くの街々に甚大な被害がありました。瑞穂町でも2016年8月の台風9号の豪雨により、土砂崩れのほか、道路冠水は町内各地で発生し、床上浸水5棟、床下浸水15棟の多くの被害となりました。

町が消防団等、関係団体とも連携し、迅速な行動をとるとともに災害時の記録を残し、次につながる対応をされたことは大いに評価するところであり、担当部署の努力に敬意を表します。

しかしながら、まちなか会議では、まだまだ地域ごとに抱えている課題は多く、課題解決に向けた取り組み、より良い環境整備を望む声が多く寄せられました。当委員会では、これらの意見を踏まえ協議を重ねた結果、以下のとおり提言します。

一、防災訓練の内容について

大規模災害への備えが叫ばれる中、いざという時のために防災訓練は欠かせません。しかし、毎年実施している総合防災訓練は、近年、参加者の減少が見受けられます。訓練内容の充実や参加しやすい工夫とともに、広域避難場所や町内会単位などで行われる地域に即した訓練に対しても支援の強化を講じられたい。

一、自主防災組織の支援について

現在の自主防災組織は町内会役員が兼務しており、地域の実情を把握している点では初動対応には適任と思われませんが、任期や担い手の点で課題があります。また、自主防災組織の各種災害への対応能力の強化も欠かせません。自主防災組織の構成のあり方も含め、地域における初動対応力の更なる充実のための支援を講じられたい。



厚生文教委員会からの提言書

瑞穂町の高齢者人口も年々増加し、平成37年(2025年)には、高齢化率が30パーセントを超えると予想されています。こうした中で、高齢者が健康で生きがいをもって、安心して暮らせることは喫緊の課題となっています。

今回の会議には、高齢者として現在も仕事をされている方や老人会(瑞寿連)の役員の方、高齢者を支える民生委員や健康づくり推進委員などの方々が参加され、貴重なご意見が多く寄せられました。

当委員会では、これらの意見を精査し協議を重ねた結果、以下のとおり提言します。

- 一、高齢者の居場所づくりの拡充に努められたい。
- 一、高齢者の移動交通手段の確保に努められたい。
- 一、長岡・元狭山コミュニティセンター調理室の機能性、安全性の確保について検討されたい。
- 一、高齢者の居住の安定確保に向けた施策の推進を図られたい。

公共交通に関する意向調査も行われたが、福祉バスは抜本的に見直し、もっと便利な移動手段に切り替え、安心で豊かな町づくりをしていくべきと考えるが、町長の所見を伺う。町長 福祉バスの運行の見直しは公約であり、30年度に今後の交通体系のあり方を検討するため「公共交通に関する意向調査」を行った。地域ごとの人口や地理



産業まつりでの福祉バス登録受付の様子

質問 福祉バスが始まり数年が経ち、何度か見直しも行われているが、「昼間はほとんど乗降客がない」など相変わらず批判も多く、毎年多額の予算も投入しており費用対効果も少ない。

特性、利用目的および経費を考慮し、持続可能な交通体系を形成すべきと考えている。検討に当たっては、現在、福祉バスを利用している方々の影響を考慮し、その上で全地域同一で



近藤 浩 議員 (改革みずほの会)

福祉バスは再考し、もっと便利な移動手段を



町長 地域オーダーメイドの視点から総合的に検証していく

委員会活動報告

交通対策特別委員会



31年1月29日にJR東日本・八王子支社、1月31日には、東京都およびJR東日本・東京工事事務所へ町とともに要望活動を行いました。

都へ『モノレール延伸の早期事業化を強力に要望』



田村・清水両都議会議員同席のもと行われた要望活動(都庁)

都としては、30年度に東大和市、武蔵村山市、瑞穂町で策定した「モノレール沿線まちづくり構想」は大きな地域の計画として、多摩地域では初であり、駅を中心としたまちづくりをしていくとの発信をいただいた。「これをもとに事業化にこぎつきたい。地元からの熱い声をいただきたい。」と回答を得た。

JRへ『八高線増便と八高線への乗り継ぎ待ち時間短縮などを強く希望』

JR東日本に対しては、八高線増便、八高線への乗り継ぎ待ち時間短縮、車両基地建設、車両の増結、新駅の設置、複線化計画の早期実現、運賃格差の是正、ホームドアまたは、可動式ホーム柵の整備、青梅街道踏切の歩道設置などを要望した。

JR東日本からは「10年間で6本増便し、30年3月に一部接続改善を行った。困難な面もあるが、今後も地元の声は聞いていきたい。31年度に内方線付き点状ブロック(ホーム点字ブロック)に改善する予定。歩道設置は都と協議中であり、車両基地整備は長いスパンになるが引き続き協力願いたい。」との回答を得た。